【週刊タバコの正体】

Vol.39 第8話～第10話

2018/03　和歌山工業高校　奥田恭久

■Vol.39

(No.541)　第8話　たばこ産業の発展

－税金も財源としてタバコに依存する...

タバコにはタバコ税が課せられている事は知っていますよね。左図は２０１５年度の日本の税収総額を示したグラフですが、国税と地方税を合わせると約１００兆円、そのうちタバコ税は約２兆円を占めています。

２兆円と聞いても、すぐにイメージできませんが、１００兆円のうちの２兆円だと考えると、そう多くないような感じもします。しかし、日本の国家予算には欠かせない財源である事は確かなのです。

つまり、国の財政上はタバコが多く売れる方が良いわけで、日本にはそんな都合にあわせるかのような法律が存在します。「たばこ事業法」と呼ばれるこの法律の目的が記された第１条を下に示しました。

(No.542)　第9話　味覚の低下

－-タバコの有害成分のために舌の味覚が低下...

タバコの煙には多くの有害物質が含まれています。ペンキの除去剤として使われるアセトンや、アリの殺虫剤に使われるヒ素なども含まれているので、喫煙すると口の中は左図のようなイメージになります。

こんな煙が充満する口の中にある器官が悪影を受けてもおかしくありませんよね。じつは、味を感じる舌もタバコの有害物質の影響を受けています。下図にあるように舌の表面には“舌乳頭（ぜつにゅうとう）”という小さな突起があり、そのなかにある“味蕾（みらい）”という器官で味を感じるのです。これが味のセンサーなのですが、タバコの煙はこのセンサー機能を低下させます。

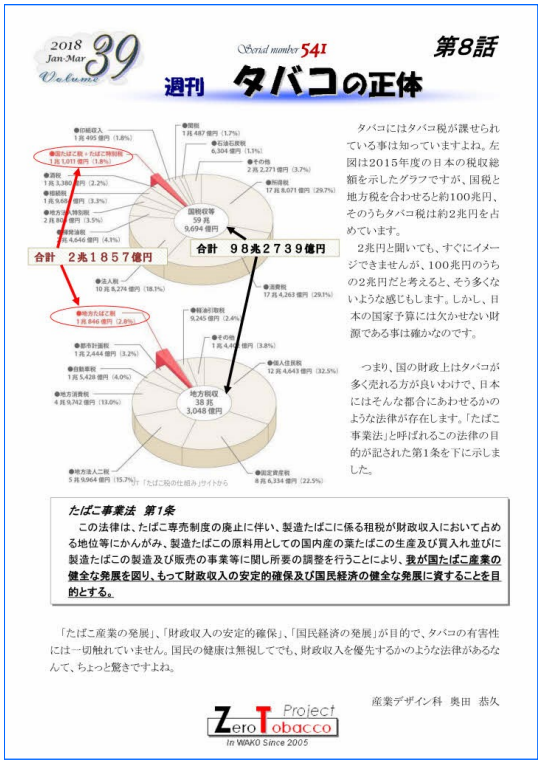
(No.543)　第10話　ニオイは重要

－喫煙者は自分自身から発しているタバコのニオイを感じていない...

今回は嗅覚とニオイについて勉強しましょう。私たちがニオイを感じるのは、鼻の奥にある嗅上皮というところです。ここにある嗅繊毛でニオイの成分をキャッチし、その信号が嗅細胞を経て脳に伝わることで様々なニオイを感じています。人間は１万種類以上のニオイを嗅ぎ分けられるとも言われています。

ところが、人の嗅覚は同じニオイをしばらく嗅いでいると、そのニオイを感じなくなる性質があるのです。この現象は“嗅覚疲労”と呼ばれ、他の感覚器官に比べ著しく疲労しやすいそうです。例えばレストランに入った時に感じた良いニオイも、しばらくすると意識していない事に気付きます。また、ニオイの強い食事をした後、それを嗅ぎ続けている本人はニオイを感じなくなっているのに、周りの人はそのニオイを嗅がされている、という場合もよくあります。

そこで、タバコのニオイについて考えてみてください。毎日定期的にタバコを吸っている喫煙者は、いつもそのニオイを嗅いでいるので、タバコのニオイに対して嗅覚疲労をおこします。だから、喫煙したばかりでも、自分の吐く息や頭髪、衣服からタバコのニオイを発している事を感じることができません。つまり、周りの人には不愉快なタバコくさい思いをさせている...



毎週火曜日発行

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のＨＰでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※ＨＰへのアクセスには右のＱＲコードが利用できます。